

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成21年5月7日

[評価実施概要]

事業所番号	4079800290		
法人名	株式会社 田中組		
事業所名	グループホーム 森の聖		
所在地 (電話番号)	福岡県築上郡上毛町大字下唐原2060-15 (電 話) 0979-84-7133		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年4月15日	評価確定日	平成21年5月27日

[情報提供票より] (21年4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 17 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 12000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(130000円)	有りの場合 償却の有無	有(6ヶ月)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1300 円		

(4) 利用者の概要(4月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	3 名		
年齢	平均 80.5 歳	最低	57 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梶原病院・東病院・唐原病院・まつざきクリニック・ぶぜん眼科
---------	-------------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

グループホーム森の聖は、大分県との県境に近い、緑豊かな小高い丘の上に位置している。他業種ではあるが母体となる法人の、長年にわたる地域との関係等を活かして、様々な関係者との連携を図っている。広い敷地の中に、余裕をもって造られた2ユニットの建物をつなぐように広いウッドデッキがあり、体操やレクレーション、また日常的な憩いの場として、四季の空気を感じながら過ごすことができる。管理者・職員は、入居者の日々の暮らしが、自然に囲まれた中で心豊かに穏やかな日々となるように支援している。開設して3年が過ぎ、課題も明確になってきており、今後の取り組みが楽しみなグループホームである。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初めての外部評価となる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、職員の意見を参考にしながら、管理者と計画作成担当者を中心にして作成された。評価の機会を活かして、改善に向けて具体案の検討や実践につなげたいと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は二ヶ月に1回、入居者家族・民生委員・市町村職員等の参加にて定期開催している。状況報告と意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。今後は議題等を検討し、内容をさらに充実させたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の来訪時や電話連絡の機会には、入居者の生活状況や心身状態の報告、金銭管理の確認などを行っている。また常に問いかけ、意見を言いやすい関係づくりに努めている。不定期ではあるが、通信を発行している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事への参加や、事業所行事への案内により交流を図っている。中でも「子どもみこし」の休憩所として事業所を提供する等、子供達とふれあうことは、特に入居者の笑顔に繋がっている。地域ボランティアとして、近隣の美容室の理髪サービスや、「なでしこシスターズ」の公演がある。評価実施日には、地域住民による庭木の手入れが行われていた。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念	「満足した日々」・「その人らしさ」・「笑顔を添えて」、という理念を創り、地域社会に貢献できるグループホームとして、いつまでもその人らしく過ごしていけるよう支援することを、事業の目的及び運営方針としている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	○理念の共有と日々の取り組み	玄関ホールに、和みのある字体で大きく理念が掲示してある。職員全員が理念を心に入れながら、日々のケアに取り組むように、朝礼にて唱和している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい	地域行事への参加や、事業所行事への案内により交流を図っている。中でも「子どもみこし」の休憩所として事業所を提供する等、子供達とふれあうことは、特に入居者の笑顔に繋がっている。地域ボランティアとして、近隣の美容室の理髪サービスや、「なでしこシスターズ」の来訪がある。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用	初めての外部評価となる。自己評価については、職員の意見を参考にしながら、管理者と計画作成担当者を中心にして作成された。評価の機会を活かして、改善に向けて具体案の検討や実践につなげたいと考えている。	○	自己評価に職員全員で取り組むことにより、日々のケアの確認や見直しに繋がると考えます。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み	二ヶ月毎に、入居者家族・民生委員・市町村職員の参加にて定期開催している。状況報告と意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。今後は議題などを検討し、内容をさらに充実させたいと考えている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携	運営推進会議以外にも、健康福祉課・生活保護課との連携を行い、サービス向上のための情報交換に努めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者は、今後の入居者の重度化等に対応するためにも、成年後見制度や日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）について学ぶ姿勢を持ち、必要な場合には活用できる体制づくりを目指している。	○	外部研修への参加や内部研修の充実など、必要な時に活用できる体制づくりへの、具体的な取り組みに期待します。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告	家族の訪問時には、入居者の生活状況や心身状態の報告、金銭管理の確認などを行っている。また不定期ではあるが、通信を発行している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	○運営に関する家族等意見の反映	家族の来訪時や電話連絡の機会には、常に問いかけ、意見を言いやすい関係づくりに努め、運営に反映させるように取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	○職員の異動等による影響への配慮	職員はすべて常勤となっており、全職員で馴染みの関係づくりに取り組んでいる。個別の離職について、今後は意識した取り組みを行いたいと考えている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重	職員の採用に関して、年齢や性別等を理由に対象から排除をしていない。人柄ややる気を重視し、個々の能力が発揮できるように配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動	スタッフルームに人権に関する資料を用意している。今後研修会等を行い、全職員の理解を育もうとしている。	○	日々の暮らしの中で、入居者を尊重する支援に努めている。今後は行政等の行う人権に関する研修会への参加や、事業所での勉強会など、取り組みに期待します。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○職員を育てる取り組み	行政等による研修に職員は参加している。研修計画や記録により情報を共有し、サービスの質の向上に向けての取り組みが求められる。	○	職員の資質や能力にあわせた内外の研修への参加により、サービスの向上や、職員の自己実現につながると考えます。今後の取り組みに期待します。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	○同業者との交流を通じた向上	運営者や管理者は、県内外の他事業所への訪問や連絡を行い、サービスの質の向上に活かしている。地域での同業者との交流も含めて関しては今後さらに取り組んでいく考えである。。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用	サービスの利用開始にあたっては、施設長・管理者・介護計画作成担当者の三者で訪問を行い、コミュニケーションをとりながら、安心してサービスの利用ができるように一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係	年長者である入居者から、調理の仕方や慣わしなど、日々の暮らしの中で学ぶ場面は多くあり、またその場面づくりに努めている。今後も学び、支えあう関係を大切にしていきたいと考えている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握	入居前後のアセスメントや、日々の暮らしの中でののかかわりを通じて、入居者・家族の思いや意向を把握するように努めている。	○	入居者の生活歴や得意分野の把握が充実することにより、多面的な支援につながると考えます。アセスメント様式の工夫・充実を期待します。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の思いや要望を大切にし、ケア検討会やカンファレンス等で話し合いを充分に行い、個別・具体的な介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	○現状に即した介護計画の見直し	個別の介護記録に、日々の暮らしの中での気づきや変化を記録し、職員間で共有しながら計画の見直しに活かしている。状況の変化があった場合には、随時対応している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援	本人・家族の希望や状況により、医療機関への受診や買い物などへ同行等、柔軟に支援している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援	馴染みのかかりつけ医との関係を大切にしながら、協力医療機関も含めた連携により、適切な医療を受けられるように柔軟に支援している。歯科・内科・精神科・皮膚科等の定期的な往診・受診体制がある。また常勤看護師による、健康管理・状態把握に努めている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有	入居開始時から、重度化や終末期の対応に関して、関係者で話し合いを行い、方針の共有に努めている。状態の変化に応じて、本人・家族の意向を大切にしながら、医療機関との緊密な連携に努めている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底	個人情報については十分に配慮し、法令を遵守した取り扱いに努めている。年長者である入居者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	○日々のその人らしい暮らし	ある程度のスケジュールは用意しているが、一人ひとりの希望や状況により、柔軟に支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援	一人ひとりの好みや能力にあわせて、テーブルやお盆拭き、野菜の皮むき等に参加してもらっている。近所の方から季節の野菜や、山菜の差し入れがあり、またメニューについても入居者と相談しながら決めている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	○入浴を楽しむことができる支援	週2回の基本的な入浴日の設定はあるが、本人の希望や状態に合わせて、柔軟に支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者一人ひとりの状態や能力に合わせて、野菜の皮むき・お盆やテーブル拭き・おやつの手づくり等に参加が見られる。毎月の行事計画をたて、入居者の楽しみにつながるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	○日常的な外出支援	一人ひとりの希望や状況、天候に応じて日常的に外出の機会をつくっている。ホーム内外への散歩(敷地内が広く、緑豊かな環境にある)や近隣の大型商業施設への買い物、ドライブ等に出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践	日中鍵をかけないケアを実践している。所在確認を徹底し、さりげなく見守りを行い、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	○災害対策	消防署の協力により、年2回の避難訓練を定期的に行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援	入居者の好みや状態に配慮しながら、栄養士により栄養バランスの配慮と、カロリー計算された献立を作成している。栄養・水分摂取量を個別に記録し、職員間で情報を共有している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	全体的に余裕をもって造られている共用空間は開放感を感じ、おだやかな雰囲気にも包まれている。ユニット間をつなぐ様に造られている広いウッドデッキでは、体操やレクリエーションが行われ、気候・天候の良い日には入居者が思い思いに自由な時間を過ごしている。リビングには畳スペースやソファが設置され、居心地のよい空間づくりを行っている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	ゆとりある各居室にはセミダブルベッドが配置されている。炬燵や筆筒など、馴染みのものが持ち込まれており、その人らしく居心地のよい居室づくりが行われている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			